

建通新聞（2018年3月6日付3面掲載）

【オリエンタルコンサルタンツ 横浜まちづくり学生会議

課題発見、解決の提案実習 視点・思考の「違い」を学ぶ】

横浜まちづくり学生会議

## 課題発見、解決の提案実習

### 視点・思考の「違い」を学ぶ

横浜まちづくり学生会議（早内玄代表）は4日、くり会議を開いた。写真：学理工学部都市基礎EP LLPまちシラス（松井真）「横浜を題材にこれからの学生と、東京都市大学らの都心居住を考える」環境学部環境創生学科・雅彦理事長」と共催し、

都市生活学部の学生、顧問の教授らが関内・関外地区を実際に歩くなどして現在の街の課題を発見・評価し、より良い居住環境を創出するための提案の取りまとめに挑んだ。

午前中はそれぞれの大学・学部が研究内容と現在までに得られた成果などを報告。ポスターセッションでは学生同士、学生と顧問との間でそれぞれの研究内容について説明や質問を交換し、相互の研究目的やその意義について理解を深めた。

午後からはグループごとに関内・関外地区を歩いた上で、現在の都市空間と居住環境における課題を抽出。グループディスカッションを行い、それぞれが発見・認識した課題の解消・解決につながるまちづくりの在り方について各自の意見を集約し、発表し合った。

この会議に協賛しているオリエンタルコンサルタンツのOBで、会議の発起人でもある松井理事長は、「学生会議もこれで4回を数える。今回は運営を学生に委ね、主体的に学ぶことの楽しさを知ってもらいたい」とした。

人や組織の違いの中で、お互いに協力して課題を発見し、意見を交わし、解決策を考える過程を通じて、コミュニケーション力、プレゼン力の必要性を実感してもらいたいとも考えた。

学生たちがこのイベントで得た気づきをこれから生かす努力をして「こればうれしい」と話している。

この会議に協賛しているオリエンタルコンサルタンツのOBで、会議の発起人でもある松井理事長は、「学生会議もこれで4回を数える。今回は運営を学生に委ね、主体的に学ぶことの楽しさを知ってもらいたい」とした。



午後からはグループごとに関内・関外地区を歩いた上で、現在の都市空間と居住環境における課題を抽出。グループディスカッションを行い、それぞれが発見・認識した課題の解消・解決につながるまちづくりの在り方について各自の意見を集約し、発表し合った。